

那須塩原市議会だより

ぎかいのひとき

6月定例会議の内容をわかりやすくお伝えします。

2026.8.20 No.120

柴犬の会



特集

柴犬の会

×

市議会

MENU

特集	P 2
議案等の審査結果	P 4
常任委員会の審査・調査	P 6
会派代表質問・市政一般質問	P 8
Future	P 18



川と育む、子どもたちの笑顔と未来



【柴犬の会】

「柴犬の会」は、自然と人とのつながりを大切に、地域全体で子どもたちの成長を支えることを目的に活動しています。世代を超えた交流や地域の協力の輪を広げ、自然豊かなふるさとを未来へ引き継ぐための活動を続けています。

<会員の構成を教えてください>

◆現在、正会員 14 名、サポートスタッフ 6 名の計 20 名で活動しています。会長を中心に役割分担を行い、イベント等の際にはメンバーが一丸となって協力しています。

<主な活動を教えてください>

◆マス釣り大会や子ども向けのマスつかみ取りを開催し、多くの子どもたちに川と触れ合う機会を提供しています。

<イベントの準備はどのくらいかかるのですか？>

◆1 週間～ 10 日くらい前から少しずつ準備します。草を刈ったり掃

除をしたり。1 日ではできないので少しずつ時間を見つけて準備していきます。場合によっては夜通しでの作業になります。

<どんな方が参加していますか？>

◆参加者は小さな子どもから高齢者まで幅広く、県外から毎年来るリピーターもいる人気イベントです。

<活動に込めた思いを教えてください>

◆子どもたちに自然の中で遊ぶ楽しさを知ってもらい、釣りだけでなく自然そのものに興味を持ち、健やかに成長してほしいという思いがあります。



—那須の自然を未来へつなぐ—

<子どもたちに川遊びを勧める理由を教えてください>

◆自然の中では達成感や成功体験が得られ、生きる力につながります。勉強だけでは得られない大切な学びが川にはあります。

<子どもたちが安心して遊ぶために大切なことは？>

◆浅瀬づくりや石で囲った遊び場の整備など、安全に遊べる環境づくりを心掛けています。親も安心して子どもを遊ばせられる場所を目指しています。

<那珂川の魅力は何ですか？>

◆天然鮎の漁獲量で全国的にも知

られる清流で、「東の那珂川、西の四万十川」と並び称されるほど魅力ある川です。

<困っていることはありますか？>

◆那珂川環境については、水量が減ってしまったり青ノロや金魚藻のようなものの繁殖がみられ、ゴミが散乱していることもあります。また、イベントを企画して子どもを呼んでも、近くにトイレが無く、水にぬれた子どもたちを車に乗せて、トイレに行っても戻ってくるような様子を見かけます。川で遊ぶ季節限定や、仮設トイレでも良いので川のそばにトイレを設置してもらいたいです。

<今後の目標は？>

◆より多くの人に川の魅力を知ってもらい、若い世代にも自然と関わる人を増やしたいと考えています。

<市民の皆さんへのメッセージをお願いします>

◆もっと川で遊び、そして川を大切にしてください。自然と触れ合うことで地域の宝を未来へつないでいきたいと呼びかけています。

「2026 夏 子供つかみ取り祭り」

9月20日(日)
受付 8:30、10:00、12:00、13:30
対象 子ども(中学生以下)

議案等の審査結果

本会議において審議された議案等の結果（報告案件は除く）は次のとおりです。		
議案番号	件 名	結 果
同意第 4 号	那須塩原市農業委員会委員の任命について	同 意
同意第 5 号	人権擁護委員の候補者の推薦について	同 意
議案第41号	令和 8 年度那須塩原市一般会計補正予算（第 3 号） ①	可 決
議案第42号	令和 8 年度那須塩原市下水道事業会計補正予算（第 1 号）	可 決
議案第43号	財産の処分について	可 決
議案第44号	再生可能エネルギーの活用に関する連携協定の締結について ②	可 決
議案第45号	市道路線の認定について	可 決
議案第46号	令和 8 年度那須塩原市一般会計補正予算（第 4 号）	可 決
議案第47号	大規模災害時における応援に関する協定の締結について	可 決
議案第48号	契約の変更について	可 決

各議員の議案等に対する賛否の状況

※賛否の分かれた案件のみ記載しています。

会派名	シン・那須塩原							公明クラブ				なすの会				みらい共創				敬清会	日本共産党	りっけん市民の会	このまちの未来のために	採決結果
議員名	松野真弓	小出浩美	林美幸	森本彰伸	齊藤誠之	相馬剛	松田寛人	齋藤寿一	矢島秀浩	星野健二	田村正宏	星宏子	三本木直人	佐藤一則	小島耕一	金子哲也	室井孝幸	山形紀弘	平井武	中村芳隆	大野恭男	堤正明	戸張靖久	赤塚茂昭
陳情第3号	■那須塩原市折戸地区における産業廃棄物管理型最終処分場建設計画を不認可とする要望を栃木県に対し提出することを求める陳情																							不採択
	×	×	×	×	－	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×

陳情の審査結果

No.	受理年月日	件 名	陳情者氏名	結 果
1	令和 8 年 2 月 10 日	放課後児童健全育成事業補助金対象経費に関する陳情	稲見 祥太 ほか 1 名	採 択 ③
2	令和 8 年 5 月 25 日	居宅訪問型保育利用助成制度の創設を求める陳情	越沼 祥子	採 択 ④
3	令和 8 年 5 月 25 日	那須塩原市折戸地区における産業廃棄物管理型最終処分場建設計画を不認可とする要望を栃木県に対し提出することを求める陳情	齋藤 藤男	不採択 ⑤

陳情第 1 号については、3 月定例会議における福祉教育常任委員会の審査において継続審査となっていました。継続審査とは、定例会議又は臨時会議の中で審査を終えられなかった請願や陳情などを、付託を受けた委員会が引き続き審査する手続きのことです。

市議会レポート

市議会議員として 25 年在職し、市政の振興に貢献したことにより、齋藤寿一議員に、表彰状が贈られました。

また、全国市議会議長会の「副会長」として全国市議会議長会に関する会務運営に貢献したことにより、齊藤誠之議員に対し、感謝状が贈られました。



齋藤寿一議員 齊藤誠之議員

議場コンサートに出演しませんか？

那須塩原市議会では、議会を知るきっかけづくりと、市内で活動するアーティストの情報発信の場となることを目的に、議場コンサートを開催しています。

※コンサートは 6 月と 12 月に開催（市議会議員選挙の年は 9 月と翌年 3 月に開催）

現在、コンサートに出演してくださる方を通年で募集しています。

出演時期や演奏内容等も、ご希望を伺いながら調整させていただきますので、興味がありましたら、ご相談ください。



出演にあたってのお願い

- ・コンサートは、議会開会日（平日）の午前 9 時 30 分から 9 時 50 分に行います。
- ・演奏ジャンルは問いませんが、会場のスペースや機材搬入の都合上、実施が難しい場合があります。

問い合わせ先 議会事務局 0287 (62) 7181



広聴広報委員会からのお知らせ

議案等の審査結果のページと委員会での審査内容のページの関連性を分かりやすくするため、番号を表示しています。

意第 5 号	那須塩原市副市長の選任について
意第 6 号	那須塩原市固定資産評価員の選任について
案第 56 号	令和 6 年度那須塩原市一般会計補正予算（第 1 号）
案第 57 号	市道路線の認定について ③
案第 58 号	令和 6 年度那須塩原市一般会計補正予算（第 2 号）
案第 59 号	令和 6 年度那須塩原市国民健康保険特別会計補正予算（第 1 号）
案第 60 号	令和 6 年度那須塩原市一般会計補正予算（第 2 号）

市任委員会

建設経済常任委員会

【審査分野】都【委員】◎大野 齋藤寿一

県の道路が市に移管され、市が管理する道路が増えます **③**
問通学路の変更や除雪の計画といったものは変更になるのか。
答変更は特にない。
問今後市が管理運営するとのことであるが、維持管理費はどのようになるのか。

建設経済常任委員会

【審査分野】都市計画、道路、農業、観光、環境、交通、水道など
【委員】◎田村正宏○堤正明、戸張靖久、小出浩美、三本木直人、室井孝幸、森本彰伸、松田寛人

横浜市との再生可能エネルギー活用に関する連携協定が締結されました。②

問 CO₂削減による市への還元の仕組みについて伺う。

答 木質バイオマスで削減したCO₂を「J-クレジット」として企業に販売し、その売却収入の一部が市へ還元される。

問 横浜市との連携で期待される効果について伺う。

答 市内事業者や脱炭素先行地域の視察、物産展の開催などを通じ、地域経済の活性化につなげる。

折戸地区産業廃棄物管理型最終処分場建設計画に関する陳情は不採択とすべきということに決しました。⑤

議員間討議 各委員の意見を出し合ったうえで採決に入るため、議員間討議を実施しました。

意 我々建設経済常任委員会にて調査研究を進めている最中である。委員会の調査研究

の結果が出る前に陳情があったということで意見書を出すことはできない。

意 住民の不安は理解するが、現段階での判断は時期尚早である。

意 委員会として調査研究を継続し、慎重に判断すべきである。

意 客観的な根拠に基づき、市議会として責任ある判断を行うべきである。

委員間討議の結果、地域住民の不安や懸念は十分理解できるとの意見があった一方で、現在は栃木県による環境影響評価などの手続きが進められている段階であり、結果が示されていない中で不認可を求めることは時期尚早であるという考えが共有されました。また、建設経済常任委員会としても引き続き調査研究を進めており、その途中で意見書を提出することは適切ではないとの意見が大勢を占めました。

予算常任委員会

【委員】◎小島耕一○佐藤一則○田村正宏、その他全議員

市の新しいまちづくりに民間の専門人材を活用します。①

問 地域活性化起業人は何人を採用し、どのくらいの期間活動するのか。

答 1名を7月から来年3月末までの9か月間採用する予定である。

問 地域活性化起業人にはどのような役割を期待しているのか。

答 次期総合計画の策定支援や、市民ニーズを的確に捉えた新たな政策づくりに専門的な知見を生かすものである。

学校施設の計画的な改修に備えます。①

問 学校施設整備基金はどのような目的で積み立てるのか。

答 緊急修繕にも活用するが、大規模改修など市の負担分に計画的に充てるための基金である。

※地域活性化企業人とは
地方自治体が企業等の社員を一定期間、派遣として受け入れる取り組み。専門のノウハウを持つ人材を即戦力として地域課題の解決に活かし、地域の活性化を図ることを目的とする。

こんなことを審査・調査しました

総務企画常任委員会

【審査分野】市政全般、情報システム、防災、税など
【委員】◎小島耕一○星宏子、赤塚茂昭、矢島秀浩、山形紀弘、相馬剛、大野恭男、齋藤寿一

6月定例会議においては総務企画常任委員会に付託された議案はありませんでした。そのため、同会期中に実施した、「委員会の取り組みテーマ」に関する調査について報告します。

【ふるさと納税】

★制度改正への対応と主力返礼品の強化
令和7年度の寄付額は過去最高の9.3億円を記録。飲料と宿泊で返礼品の4分の3以上を占めた。令和8年10月から地場産品基準が厳格化されるなど、度重なる国の制度改正への対応が課題である。

問 制度改正で主力返礼品の提供が止まる恐れはないか。

答 事業者側と密に協議し、提供継続に必要なデータの提出を前向きに検討いただいている。

【ガバメントクラウドファンディング（GCF）】

★共感による課題解決
GCFとはふるさと納税を通じて自治体が発信した課題に共感した人から寄付を募る仕組みで、本市では犬猫の避妊・去勢など4件の実績がある。

問 昨年度、犬猫の避妊・去勢で共生を叶えるプロジェクトが好結果となった要因は。

答 シンポジウムでのPRやSNS発信に加え、動物愛護という使途の明確さが共感を呼んだと推察される。

【PFI（民間資金等活用事業）】

★民間活力を活かした公共施設管理
PFIとは民間の資金やノウハウを活用し、コスト削減を図る手法で、「長寿の湯」のリニューアルで導入した実績がある。一方で、建築費高騰等により採算性等の面で十分な効果が得られない場合もある。

問 物価高騰が続く今の時代、PFIは有効なのか。

答 市場環境の影響を受けやすくシビアな面はあるが、民間の工夫による財政負担の平準化やサービス向上には依然有効。今後も客観的に導入を判断していく。

福祉教育常任委員会

【審査分野】福祉、子育て、教育、文化、スポーツなど
【委員】◎佐藤一則○林美幸、松野真弓、星野健二、平山武、齊藤誠之、中村芳隆、金子哲也

放課後児童健全育成事業補助金対象経費に関する陳情を採択すべきものとして決しました。③

議員間討議 各委員の意見を出し合ったうえで採決に入るため、議員間討議を実施しました。

意 執行部からの説明では、現在の本市独自の計算方法になった経緯に対する明確な回答がなく、また、現状の方法に対し、執行部が最も適したものとは捉えていないように感じた。

意 本陳情は単純に補助金の増額を求めているわけではなく、あくまでも、国の基準と合った運用にしてほしいというものである。また、近隣の自治体も国の基準に合った運用をしていることも踏まえると、採択で良いかと考える。

また、「本陳情は、国の制度における考え方と市の運用方法との相違を問題提起したものである。放課後児童健全育成事業の安定的かつ継続的な提供という観点からも補

助制度の在り方について検証を行う必要があるため、本陳情を採択したい」という内容の賛成討論もありました。

居宅訪問型保育利用助成制度の創設を求める陳情を採択すべきものとして決しました。④

那須塩原市内で居宅訪問型保育事業を営む陳情者が参考人として出席し、陳情者から、シングルマザーや障害を持つ子どもの家庭、双子を育てる家庭など、既存の保育サービスでは対応が難しい多様な家庭への支援実態に関する説明がありました。その後、議員間討議を実施したところ、委員から「保育所では対応できない多様なニーズに応えるサービスであり、那須塩原市においても早期に制度を創設すべき」との意見が共有されました。

※ QRコードを読み取ると質問の様子を見ることができます。



なすの会
小島 耕一議員



那須高林産業団地の地中障害物に係る損害賠償について

問 今回の地中障害物の発生原因について伺う。

答 岩の成分分析調査から、塩原地区で採取された岩石と同質の岩石が那須高林産業団地に搬入された可能性が高いが、原因の特定には至っていない。

問 時効も近づいているので、警察に相談してはどうか。

答 原因者不明のまま警察に告訴が可能かどうか検討している。

問 いつ頃、告訴に向かうのか伺う。

答 具体的な目標を申し上げることは困難だが、市の顧問弁護士と相談して検討する。

第3子以降の子どもを増やす少子化対策について

問 近年の本市の第3子以降の出生数を伺う。

・時効も近いので、警察に告訴しては
・人口減少を止めるために、第3子以降の出生支援に強力な支援を要望する。

答 令和4年、出生数671人、第3子以降157人、割合23.4%、令和5年、出生数601人、第3子以降115人、割合19.1%、令和6年、出生数560人、第3子以降97人、割合17.3%と減少傾向にある。

問 第3子以降の出生数を増やす対策は。

答 第2子以降の保育料の無償化や保育施設における第3子以降の副食費の免除、児童手当における第3子以降の所得制限の撤廃、高校生までの支給年齢の延長に加え、国では3人以上の多子世帯の大学の授業料や入学金の無償化もある。

問 第3子以降では、自家用車や家など経費が多くかかるので、子育て応援に30万円出してはどうか。

答 妊婦への支援給付や出産一時金約50万円があるため、ご意見として研究していく。



公明クラブ
田村 正宏議員



国際情勢の変化を踏まえた持続可能な市政運営について

問 新庁舎整備については2度の入札不調となったが、社会経済情勢の変化を踏まえ、事業スケジュールや整備手法、基本的な考え方を見直す考えはあるか。

答 基本的な考え方や整備方針に変更はない。市場調査を踏まえ柔軟に工夫しながら、令和11年度末までの完成を目指して進めてまいりたい。

問 市内の中小・零細事業者の倒産や休廃業、解散の状況と、物価高騰などを踏まえた市独自の中小零細企業支援策の考えを伺う。

答 近年、倒産や休廃業、解散の件数は増加傾向にある。国・県の支援制度を活用しつつ、事業者の状況や国際情勢を見極め、必要に応じて市独自の支援策を検討してまいりたい。

持続可能なまちづくりの視点から、将来世代を見据えた効率的な行政運営が求められます。

問 補助金や融資などの支援制度を事業者が探しやすいよう、市のホームページを改善すべきではないか。

答 必要な支援制度へ迷わずアクセスできるよう、事業者目線に立った分かりやすいレイアウトへの改善に速やかに取り組んでまいりたい。

子ども・高齢者を守るための熱中症対策の充実について

問 熱中症対策や環境負荷軽減のため、学校や公園、道の駅などにもマイボトル対応型の給水スポットを設置するべきではないか。

答 給水スポットは熱中症対策として有効と認識している。屋外設置には防犯や衛生管理などの課題があるため、今後、必要性や設置環境を見極めながら検討してまいりたい。



佐藤 一則議員



鳥獣被害の現状と対策について

問 本市における令和7年度の獣種別の被害額について伺う。

答 シカ1,412万9,000円、イノシシ420万円、熊0円、猿35万4,000円、カラス1,228万1,000円である。

問 本市における7年度の獣種別の捕獲数について伺う。

答 シカ575頭、イノシシ105頭、熊25頭、猿156頭、カラス119羽である。

問 本市における令和8年度の獣種別の捕獲計画数について伺う。

答 シカ910頭、イノシシ120頭、熊17頭、猿150頭、カラス180羽である。

問 鳥獣被害対策実施隊の隊員確保の取り組みについて伺う。

答 有害鳥獣の捕獲を目的とした狩猟免許の取得に要した費用や猟銃等の購入に要した

本市の対策により、クマ等が市街地に出没しないこと、人身被害がなくなること、被害件数と被害額が減少することを期待します。

費用を支援している。

問 有害鳥獣の捕獲に対する報償金について伺う。

答 シカ15,000円、イノシシ16,000円、猿13,000円、熊8,000円であり、鳥類についての報償金はない。

緊急銃猟の対応について

問 緊急銃猟の制度について伺う。

答 人の日常生活圏にクマ等が出没した場合、安全確保等の措置を十分に講ずるなど、一定の条件を満たした時に、市町村長の判断で、猟銃を使用した捕獲をハンターに委託するものである。

問 捕獲実施者への報償費について伺う。

答 活動に要した時間1時間当たり1人2,500円、危険手当として1日当たり1人1万円である。



森本 彰伸議員



環境施策の費用対効果について

問 同じCO₂削減でも、LED化や高効率空調、高断熱化の方が、太陽光発電や蓄電池導入より費用対効果が高いと考える。市は各施策のCO₂削減コストを比較しているのか。また、太陽光発電や蓄電池を推進する根拠は何か。

答 市でも試算しており、CO₂削減だけを比較すればLED化などの方が優れている場合がある。そのため施設更新時にはLED化や高効率設備も導入している。一方、太陽光発電や蓄電池は災害時の電源確保という目的もあり、CO₂削減コストだけで判断しているものではない。

西那須野地区のスポーツ施設の整備計画について

問 にしなすの運動公園体育館は平日夜間や

三島体育センター体育館は市民に愛される施設！
市民のニーズに応える体育館に！

土日に予約が取りにくい一方、三島体育センター体育館は規模縮小の方針が示されている。需要が高い体育館を縮小することは整合性が取れないと考えるが、市の考えは。
答 三島体育センター体育館は一定程度縮小しても需要に対応できると想定しているが、具体的な規模については今後検討する。また、市全体の施設バランスや財政負担、将来人口や利用需要を考慮するとともに、市民から幅広く意見を聞きながら適正な施設規模を見定めていく。



三島体育センター



林 美幸議員



働きづらさを抱える人への就労支援の実効性と官民連携の推進について

問 庁内の役割分担と連携の現状について伺う。

答 雇用対策運営協議会のもと各課がハローワーク等と連携し、切れ目のない就労支援体制の構築に努めている。令和8年度からは障害者就労支援コーディネーター事業を開始した。

問 就労支援を実効性あるものとするための市の考えについて伺う。

答 官民の役割を明確にした連携が必要であり、雇用対策運営協議会のネットワークを最大限に生かした実効的な仕組みを推進する。

発達支援における切れ目のない支援体制の構築について

問 発達支援の対象児童生徒の早期発見の取り組みと支援が途切れる要因は。

子ども期の発達支援が就労困難を防ぐとして、縦割りを越えた連携を求めました。

答 乳幼児健診・5歳児健診・就学時健康診断など成長段階に応じた早期発見に取り組んでいる。支援が途切れる要因として保護者のニーズ変化や心理的ためらいがある。

問 切れ目のない支援の確保と、次期発達支援システム推進計画の方針について伺う。

答 各ライフステージで作成する個別支援計画を、次の関係機関に「つなぐ」支援を実施している。次期計画では保護者支援の充実など支援の強化を進める。



小出 浩美議員



年代を問わない「若い力」が躍動するまちづくりについて

問 市民提案型協働のまちづくり支援事業補助金の概要、成果について伺う。

答 この補助金では、若者から高齢者まで、年代を問わない若い力が躍動するまちづくりの支援を行ってきた。成果としては、アンケートを実施したところ、回答のあった団体の8割以上が今も事業を継続しているということ、半数以上の団体が、団体の活動が活性化された、地域内外にネットワークが繋がったと回答しており、活動支援につながっていると感じている。

熊被害への対応について

問 指定管理鳥獣となった熊の被害対策として、市ホームページ上に公開されている熊出没データや目撃件数の多い地域住民など

世代を問わない「若い力」によるまちづくり、熊による被害を未然に防ぐ対応について質問しました。

へのヒアリングなどを行って、早急に箱かななどの増設、捕獲を強化し、被害を未然に防ぐ対応を示すべきと考えるが所見を伺う。

答 人的被害を未然に防止するためには、熊を人の生活圏に近づかせないことが重要であり捕獲の強化もその1つである。

地元猟友会とも密に連携し、必要なわなの追加購入、効果的な設置、捕獲を検討していきたいと考えている。



金子 哲也議員



ぽっぽ通りについて

問 昨年度は乃木緑地に多目的トイレが完成し、利用者に大変喜ばれている。ぽっぽ通りの花の道を観光の拠点にするべく、ますます充実させるべきと考えることから、ぽっぽ通り南方1.5kmの区間に水やりの為の水道栓を設置できないか伺う。

答 道路維持管理に必要な設備として、2ヶ所に7月中設置完了予定である。自然環境、生活環境の面から良い取り組みと評価する。

教育行政について

問 姉妹都市リンツ市との中学生交流が、成果を上げてきた。このことは市の誇るべき財産になっている。今までにオーストリア・リンツ市に派遣した中学生は何人か伺う。

答 オーストリアに派遣した子どもたちの数は中学2年生630名と引率教員115名。

役所は市民サービスを一番大切にすべき。窓口と電話の極端な受付短縮はやめてほしい。

リンツ市からホームスティで受け入れたのは261名である。リンツ市と那須塩原市が太い絆で結ばれていることは本当にありがたいと思う。

市役所の窓口と電話受付時間の変更による市民サービスの影響について

問 市役所の窓口と電話受付時間が午前9時から午後4時に短縮された。4時に玄関を閉じたり、電話を通じなくするのは、市民サービスに逆行するのではないか。変更した理由を伺う。

答 当日受け付けた申請等を勤務時間外に処理することが常態化しており、職員の健康面に支障を来すほか、企画立案や専門性を高める研修の時間確保が困難になるなど、市民サービスの向上を阻害するので改善が必要である。



矢島 秀浩議員



スポーツツーリズムの新たな取り組み、ゴルフツーリズムが本市の新たな魅力創出につながることを期待します。

スポーツツーリズム推進の進捗と今後の展開について

問 スポーツツーリズムによる経済波及効果をどのように分析しているか伺う。

答 経済波及効果は宿泊費や飲食費などの旅行消費額を基に分析しており、令和6年度は約8億円と算出している。地域経済の活性化につながっていると考えている。

問 スポーツ合宿について「件数増・人数減」という現象が起きた要因を市としてどう分析しているか伺う。

答 スポーツコミッションが直接誘致した件数は増加しており、PRの効果が表れている。参加者数の減少は、夏季休暇などの繁忙期に利用希望が集中し、利用枠の競合が生じたことが要因と分析している。今後は平日や閑散期への分散誘致を強化していく。

問 平日利用促進への取り組みについて伺う。

答 新たにインバウンドやシニア層に訴求力の高いゴルフツーリズムを推進していく。

問 ゴルフツーリズムについて、今後どのような事業を展開していく考えか伺う。

答 国体ゴルフ競技会場となった3つのゴルフ場と連携し、温泉や本市ならではの食を組み合わせたツアーを造成する。受入体制を整備し、海外旅行会社とのつながりを構築しながら誘客を目指す。

問 今後のスポーツツーリズムの展望について伺う。

答 本市の自然環境や地域資源を生かした体験・体感型観光を進める。市民利用との両立を図りながら、健康増進やウェルビーイング向上につなげていく。



松野 真弓議員



市民の利便性向上に向けた「どこでも窓口」の推進と今後の展望について

問「どこでも窓口」の導入目的について伺う。

答市民が庁舎に足を運ぶことなく 24 時間場所を問わず手続きが可能となるなど、利便性が向上する。また行政側として、極力デジタル化できるものはデジタル化をし、そこで生まれたリソースを新しい市民サービスの創造や提供に回していきたいと考えている。

問現在の課題認識について伺う。

答高齢者など一部の方にとって利用しにくいという声があることも認識しており、より多くの方にとって使いやすいサービスの在り方を検討していく必要があると考える。

問デジタルデバイドへの対応について伺う。

答主に高齢者などに向けて、出前講座などで登録方法や操作方法について丁寧な説明

操作方法が難しい「どこでも窓口」をもっと使いやすく、わかりやすくすることですべての市民に寄り添うサービスに！

を行っている。また手続きについて「デジタル」だけに特化するのではなく、従来の対面での窓口受付や電話対応においてもサービスの向上に努めていく。

問視覚障がい者をはじめとするデジタル機器を使用するにあたり困難がある市民への対応について伺う。

答視覚障がい者に限らず、すべての障がい者に対しての支援が必要であると考えている。このため、音声読み上げソフトの導入など、システムそのものが必要なのか、または障がい者のオンライン申請を含めた生活支援が必要なのか、人の手を介してのサポーターが必要なのかなど、関係課の意見を踏まえながら検討していきたい。

※デジタルデバイドとは
インターネットやパソコン・スマートフォンなどの情報通信技術を利用できる人とできない人の間に生じる情報格差のこと



山形 紀弘議員



脱炭素政策及び CO₂ 削減の状況について

問 2013 年度比 15.9%削減の成果を、市はどのように評価しているのか。

答一定の成果が出たと評価する一方、2030 年度目標達成には取り組みの加速が必要と認識している。

問森林整備の具体的効果と、伐採・再造林による森林循環への所見を伺う。

答森林経営管理制度を活用した間伐・皆伐を実施し、木材の有効活用と CO₂ 吸収機能の強化を推進している。

投票率向上と開票事務について

問これまで実施してきた投票率向上施策の検証と効果について伺う。

答イオンタウンでの期日前投票所開設や若年層への啓発事業を実施し、投票機会の拡大を図っているが、投票率向上への具体的

移動式投票所の導入や電子タブレット投票の調査研究を進め、投票率向上に繋げていく。

な効果検証は困難としている。

問移動式投票所の導入について、その後の検討状況と今後の方向性を伺う。

答移動式投票所は人員確保や設備、費用対効果などの課題から導入は困難と判断し、移動支援策の実施を検討している。

問疑問票の減少が期待される電子タブレット投票への所見を伺う。

答電子タブレット投票は、開票時間の短縮や疑問票の減少など大きなメリットがある一方、国政選挙では導入できず、選挙ごとに投票方法が異なるため市民の混乱が懸念されるとしている。



堤 正明議員



林野火災の対応について

問林野火災に対しては事前の備えが不可欠であり、消火活動においては人工水利・自然水利などの水源確保が重要であると考えている。また、市街地への火災の拡大を抑えるための延焼防止帯（防火帯）の配置も不可欠であると考えていることから本市の対応についてお聞きする。

答延焼防止帯の配置は、火災の拡大を防止するために非常に有効である。消火活動による延焼阻止が困難と判断されるときは、森林所有者などと調整し、森林を伐採することにより臨時的防止帯を形成する。

小学校及び義務教育学校における朝食提供の取り組みについて

問子どもたちが健やかに成長する上で「食育」の果たす役割は極めて大きい。学校現

加齢性難聴者の補聴器購入支援事業は、中度難聴者全ての人に支援を。

場における朝食提供の取り組みへの支援についてお聞きする。

答食育の観点からみた朝食は、生涯にわたる健康の基盤であり、正しい食習慣を培う重要な役割があり、子どもたちの成長と将来の健康を支える上で不可欠である。

全ての子どもたちが朝ごはんを食べられる環境を整えることは、健康的な生活リズムや確かな学力を育む上で重要であると考えている。

加齢性難聴者の補聴器購入支援事業について

問加齢性難聴者の補聴器購入の助成を求める請願が採択されたことから事業化の考えについてお聞きする。

答請願の採択は真摯に受け止める。財政影響や他施策とのバランスなど引き続き調査・研究を行う。



室井 孝幸議員



観光誘客に向けた戦略について

問観光客や宿泊客数を伸ばすためにどのような取り組みを行っているか。

答那須塩原市観光マスタープランに掲げる 4 つの基本方針として、1 点目に持続的かつ競争力のある観光地づくり、2 点目に観光客の来訪促進、3 点目に観光客受入れのための社会基盤の強化、そして 4 点目に強靱な観光地経営基盤づくり、これらに基づき観光施策を展開している。具体的なものとして、一般社団法人那須塩原市観光局との連携により ONSEN ガストロミーウォーキングや日本遺産を活用したプロモーション事業やイベントなどに取り組んでいる。

問インバウンドを推進するためどのような取り組みを行っているか。

1. 観光誘客に向けた戦略について

答本市を含む那須地域が観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり事業」のモデル観光地に指定されており、広域的な連携の下、事業に取り組んでいる。また、那須塩原スポーツコミッションにおいて、ゴルフツーリズムを推進し、海外からの誘客に向けた事業を実施する予定でいる。

問持続可能な観光を実現するため、宿泊税等の導入を含む責任ある観光を推進するための考えはあるか。

答責任ある観光の実践例として、木の俣園地駐車場の有料化などのオーバーツーリズム対策を実施している。そういった実績や、今後の宿泊税の導入検討を通じ、持続可能な観光地への探求を進めていきたいと考えている。



戸張 靖久議員



子どもたちや高齢者の命を守る生活道路の安全対策について

問 車両の速度抑制を図るため、道路を隆起させたハンプ等の物理的対策を組み合わせたゾーン 30 プラスの導入について伺う。

答 ハンプ等による速度抑制の効果は認識している一方、騒音や振動、地域住民の通行への影響もあることから、導入には地域の合意形成が必要である。今後、地域から要望があり合意形成が図られた場合には、国の補助制度の活用も含め検討していく。

小中学生の通学時における負担軽減について

問 教科書やノート、タブレット端末、水筒、体操着など、児童生徒が通学時に持ち運ぶ荷物の現状について伺う。

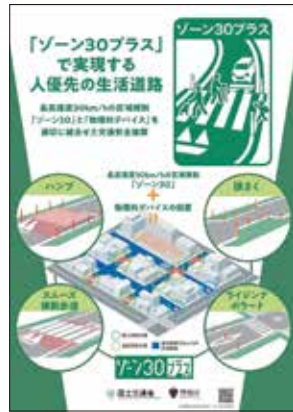
答 各学校では、家庭学習で使用しない教科書や日々の持ち帰りが不要な学習用具等を

命を守る道路へ。子ども・高齢者・ドライバーを守る安全対策の強化を！

学校に置くよう指導し、身体的負担の軽減に取り組んでいる。一方で、週の始まりや終わり、長期休業前後などは荷物が多くなる日があると認識している。

問 児童生徒の身体的負担を軽減するため、教材や用具の持ち帰りについて、今後どのように対応していくのか伺う。

答 市内一律のルールは設けていないが、各学校の実情や学年の発達段階に応じ、持ち帰るものと学校に置くもののルールを定めている。今後も児童生徒や保護者の声を把握し、各学校に負担軽減への配慮を促していく。



星野 健二議員



安心して暮らせる高齢者の福祉向上について

問 高齢化が進んで独居高齢者も増えていくことが予想される中、重要となるのが地域包括ケアシステムの機能の充実が必要であると考えことから、地域包括センターの今後の体制について伺う。

答 多様化するニーズへの対応に向けて、関係機関との連携強化と潜在的な課題の早期発見のための訪問支援を充実させる。また、基幹型地域包括支援センターとの緊密な連携を通じ、地域全体の包括的支援体制の充実に努めていく。

問 介護DXの推進と事業者への支援をどのように捉え、現在取り組んでいるのか。

答 デジタル機器の導入については多額の初期費用がかかることから、慎重に判断する必要がある。県などと連携を図りながら、事業所が円滑な介護DXを進められるよ

う、情報面、手続面、両面からしっかりと後押しして参りたい。

子どものインフルエンザ予防について

問 学校運営上のリスク、学級・学年閉鎖の回避と子育て世代の経済的負担軽減を目的として、予防接種の助成対象を児童生徒及び幼児にも拡大することはできないか。

答 県内他市町の助成状況、こちらを注視しつつ、引き続き調査・研究に努めてまいりたい。



星 宏子議員



世界情勢を鑑みた、これからの那須塩原市の農業と食料政策について

問 国際情勢を鑑み、ビニール資材や農業用資機材等の不足に備える仕組みの創設と食料・飼料等の安定確保を目的とした、那須塩原市独自の施策への考えについて伺う。

答 国際情勢の変化が本市の農業経営に影響を及ぼす。平時の備えと迅速な対応力の強化が重要であるが、市が飼料や燃油を保有することは困難である。飼料や燃油の供給停止した際は、必要に応じて県や国にも要望する。

問 国の「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、本市は農業と食料政策の将来像をどのように描いているのか。

答 本市が描く将来像は、魅力と活力にあふれる持続可能な農業のまちの実現である。国の「みどりの食料システム戦略」が掲げ

自然災害や国際情勢の影響をあまり受けて、飼料、肥料等が調達できる地域循環型農業経営の確立を。

る環境負荷低減や資源循環視点を踏まえ、スマート農業の推進や化学肥料、農薬低減の取り組み等を通じて生産力向上と持続可能な両立を目指し、本市の農畜産業の付加価値を一層高め、ブランド力の向上とイメージアップを図る。

食品ロス削減への取り組みについて

問 食品ロスの現状と課題について。

答 今年度環境省のモデル事業を活用し、家庭系の食品ロス発生量調査を行い実態を把握する予定である。

問 「食品ロス削減全国大会 in 那須塩原市」を契機に「食品ロス削減推進計画」を策定するのか。

答 食品ロス削減推進計画の策定も検討していきたい。



赤塚 茂昭議員



三島体育センター再整備について

問 再整備を検討する中で、利用団体や関係団体の意見を取り入れる考えはあるのか、伺う。

答 再整備の検討に当たり、施設利用団体や関係団体をはじめ、幅広く意見を伺いながら検討を進めていく考えである。

那須塩原駅周辺の社会実験と地域主体の祭りにおける予算配分の妥当性について

問 令和8年度に予定している社会実験の最大の目的について伺う。

答 駅前の交通錯綜の解消や那須塩原らしいにぎわい空間の創出、本市の魅力を体験できる場を整備し、観光目的地の一つとして育てることが目的である。

問 物価高騰により祭りの実行委員の負担が増大しているが、市民主体の祭りを守るた

市民の声を大切に、祭りや公共施設が将来へ受け継がれる市政を望みます。

め、補助金制度の見直しや安全対策費への重点支援などを検討する考えはあるか伺う。

答 近年の物価高騰等が実行委員会の負担になっていることは十分認識しており、安全対策費など市民の安全安心に直結する経費への配分や充当について検討している。今後も持続可能な支援の在り方について検討したい。

問 今後、市の財政が厳しくなったとしても、祭りを継続的に支援していく考えに変わりはなく伺う。

答 市の財政悪化や財政不安になることは当面の間はないものと思っている。地域の祭りが、シビックプライドの醸成や地域の誇りをもてるといった効果をもたらすということも認めている。

第24回 議会報告会 「なしおふれあいトーク」を開催しました

5月30日（土）に那須塩原市図書館みるるで第24回議会報告会「なしおふれあいトーク」を開催しました。今回の議会報告会も、昨年度と同様に、議会報告と意見交換の2部構成で実施しましたが、会場はみるるのアクティブラーニングスペースを利用しました。

大変開放的な雰囲気となり、当日は飛び入りでの参加もありました。

第一部

議会報告の部では、議案の審査など、定例会議や臨時会議以外の場で、那須塩原議会が日頃から取り組んでいる活動について動画を作り、視聴してもらいました。



那須塩原市議会では、議会報告会や意見交換会、議会だよりの発行、SNSでの情報発信に加え、中学校への出前講座や主権者教育、模擬議会、夏休み子ども議会探検などを実施しています。これらの取り組みを「声を聴く」「伝える」「育てる」「参加する」という4つのキーワードで動画にまとめました。

動画をFacebookに投稿しています。
右の2次元コードを読み取ることで
ご視聴できます。



- 「声を聴く」.....
議会報告会や意見交換会、市民との対話を通して、皆さんの困りごとや想いを伺っています。
- 「伝える」.....
議会だよりの SNS (Facebook、Instagram)、ホームページを通して、わかりやすく伝えています。
- 「育てる」.....
中学校への出前講座や高校生の主権者教育を通して、子どもや若者が地域に関心を持ち「自分たちのまちを自分たちで考える力」を育てることを大切にしています。
- 「参加する」.....
議会に参加するきっかけとなるよう、意見交換会や夏休み子ども議会探検、模擬議会、出張議会を開催しています。

第二部

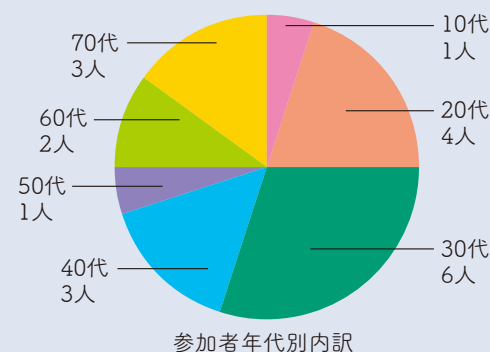
第二部ではグループに分かれて意見交換を行いました。意見交換のテーマは那須塩原市の「良いところ」と「わるいところ」です。皆さんから出た意見を抜粋して紹介します。



参加者向けアンケート結果

当日は、参加者に任意のアンケートを実施しました。アンケートに記載された感想を一部抜粋して紹介します。

- ・「人の意見を否定せず、とても話しやすい、また、たくさん皆さんの声をきくことができ、勉強になりました」(50代)
- ・「場所が会議室ではなくて、とてもオープンでよかった」(70代)
- ・「安全な場所で、自分の意見を聞いていただき、とても良いお時間でした」(20代)



議会報告会を終えて



参加者同士によるエール交換

みるるのアクティブラーニングスペースを会場とし、開放感を活かした「開かれた議会報告会」を開催しました。また、動画を活用して議会の取り組みを分かりやすく紹介しました。世代を超えた対話の中で理解と共感が生まれ、最後にはベテラン世代から若者へ「若者よ、がんばれー」と温かいエールが送られるなど、未来につながる有意義な報告会となりました。

(広聴広報委員会委員長 林 美幸)

Future

～わたしの夢～ No.36

那須塩原市立鍋掛小学校 6年

さわ しょう
澤 丞さん

日本代表としてワールドカップへ

僕の将来の夢は、サッカーで日本代表になり、4年に1度のワールドカップで優勝することです。

僕は、小さいころからサッカーが大好きでした。サッカーを好きになったきっかけは、2人の兄がやっていたことです。クラブチームで2人のプレーする姿を見て、とてもかっこいいと思っていました。そして僕も、「やりたい」と思い、五才の時に兄と同じクラブチームでサッカーを始めました。そこからは、クラブチームの仲間や、父や兄などと毎日練習をしてきました。最近は、特にドリブルの練習に力を入れています。ドリブルを上達させ中学校や高校でも活躍し、そして将来は日本代表になって、ワールドカップで優勝したいです。



丞さんは、何事にもまっすぐに、そして全力で取り組んでいます。普段はサッカークラブに所属し、仲間と切磋琢磨しながら技術を磨いています。また、その実力が認められ、今年は那須地区の代表選手にも選ばれました。学校生活では陸上活動や駅伝活動にも積極的に参加し、持ち前の粘り強さと努力で素晴らしい活躍をしています。どんなことにも一生懸命挑戦し、仲間とともに成長し続ける丞さんの姿は、とても頼もしい限りです。夢に向かって努力を続けていく丞さんを、これからもずっと応援していきます。（推薦者 仲山 竜暉先生談）

議 会 暦						
日	月	火	水	木	金	土
8/30	31	9/1	2	3	4 本会議 再開、提案説明	5
6	7 本会議 会派代表質問	8 本会議 一般質問	9 本会議 一般質問	10 本会議 一般質問	11 本会議 一般質問	12
13	14 本会議 一般、議案質疑	15 常任委員会 付託議案	16 常任委員会 付託議案	17 常任委員会 付託議案	18 常任委員会 付託議案	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29 常任委員会 全協、予算、決算	30 本会議 採決、散会	10/1	2	3

※上記の日程は予定です。今後変更になる場合があります。

本会議、常任委員会は、午前10時開会予定です。

※会派代表質問は午前9時25分開始予定です。

次回予告

次回の議会だよりは
令和8年11月20日発行予定です。

～掲載予定内容～

- 特集取材
- 9月定例会議審査内容
(委員会審査、会派代表・市政一般質問等)
- Future ～私の夢～
- 議会暦（12月定例会議日程）

編集後記

令和8年6月定例会議では、市民生活や福祉、教育、防災、地域経済など、暮らしに直結する様々な議案について活発な審議を行いました。議会は、市民の皆様の声を市政へ反映させる大切な役割を担っています。審議の概要や一般質問の内容を簡潔にお伝えできるよう努めました。議会だよりを通じて市議会の活動をより身近に感じていただき、市政への関心を深めていただければ幸いです。これからも、市民の皆様の期待と信頼に応えられる議会を目指し、分かりやすい情報発信に努めてまいります。今後とも、市議会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。（佐藤 一則）